音楽科学習指導案

日　時　平成２６年６月５日（木）公開授業Ⅱ
学　級　岩手大学教育学部附属中学校
　　２年Ｂ組３９名
会　場　音楽室
授業者　赤　坂　裕　子

１　題材名

「創作　～日本の音階（平調子）の特徴を生かし，リズムや構成を工夫して旋律をつくろう～」

２　題材について

（１）　生徒観

生徒たちは，歌唱や器楽の活動において，難しい旋律を覚えるための手段として階名唱を用いたり，楽器を演奏する前に階名唱をしたりと，学習を積み重ねる中で，自然に音階や音程の感覚をつかみ始めてきた。また，耳で聴いた旋律を覚え，声に出して再現するということは，生徒たちが好きなアーティストの歌を覚える時に行われていることであり，こうした聴いて模倣する模唱・奏は日常的に鍛えられているといってよい。

１年生の前半では，西洋音楽を中心に，楽曲の構造や曲想の変化について学習した。映画のテーマ曲を聴いて紹介文を書く活動では，知っている曲ということから，スムーズに学習を行うことができた。後半では，箏や尺八などの和楽器の学習を中心に，我が国の伝統音楽に触れてきた。箏や尺八の学習を終えた生徒の感想やまとめから，西洋音楽に慣れ親しんできている生徒たちにとって，和楽器の音色や日本の音階がとても新鮮に感じられ，印象深かったことが窺える。

これまで，創作の分野における学習では，アルトリコーダーを活用し，２小節の固定された旋律に対して，西洋音楽の音階を用いて，音や音価を限定して続く旋律をつくる活動を行っている。対象となる２年生は，授業開始時にピアノで弾いた単音や短い旋律などを，階名で歌うことを積み重ねてきており，音を聴き取る力は身に付いてきている。さらに，思いをふくらませながら，自分で音を選択して旋律をつくる経験を積むことができれば，今後の様々な音楽活動が，より豊かなものになるであろう。

これらのことを踏まえて，２年生では，日本の音階の特徴に着目させながら，まとまりのある旋律づくりに取り組ませたい。旋律をつくっていく過程では，生徒たちが知覚・感受したことを言葉やワークシート等に記入したものを活用しながら共有させ，学習を深めさせたい。そして，試行錯誤して音を音楽へと構成していくことに達成感や喜びを味わい，音や音楽への興味・関心が更に高まることを期待したい。

（２）　題材観

本題材では，学習指導要領【第２学年及び第３学年】Ａ表現の（３）創作の活動を通して指導する事項であるア「言葉や音階などの特徴を感じ取り，表現を工夫して簡単な旋律をつくること」と，共通事項「リズム」「旋律」「構成」にかかわる学習を中心としている。

本題材では，１年生の後期に学習した我が国の伝統音楽から，「さくら　さくら」に見られる平調子の音階を扱う。１時間目では，この音階の構成音を iPad アプリ「Virtuoso」を活用して生徒自身が模索して見つけ，平調子の音階の特徴をつかむ。音高やリズムを変化させることにより生まれる雰囲気の違いなどを感じとら

せながら，８小節の短い旋律をつくっていく。創作活動の過程で一人一人が知覚・感受したことを言葉や音で伝え合い，その良さを認め合う場面を設定することで，自分の作品に生かしたり，思いを深めたりすることにつなげていきたい。２時間目では，８小節の旋律を反復させ，２小節の前奏と２小節の間奏を加え，まとまりのある音楽をつくる。また，ペア学習で，つくった旋律に伴奏として，オスティナートや様々な小物打楽器を加えたものを発展課題とする。これらの活動を通して，音楽をつくる喜びや達成感を味わわせたい。

（３） 学びの自覚化について

一人一人が知覚・感受したことが，他の仲間にとっても価値があることだと気付いた時や，学習したことが実社会の中で生かされていることを知った時，本時の学びの価値や意義が喜びへとつながると考える。このことが「学びの自覚化」であり，社会で生きる力となるであろう。

本題材では，音やリズムが変化することによって生まれる雰囲気の違いを感じ取り，共通事項である「リズム」「旋律」「構成」を手掛かりに，感じたことを言葉やワークシート等に記入したものを活用しながら共有し合うことや，お互いの作品の良さを認め合うことから，自分の旋律づくりへのヒントを得たり，思いを深めたりすることをねらいとしている。さらに，日常親しんでいる音楽が，本題材における活動と深くかかわっていることを知ることにより，音を音楽へと構成していくことに達成感や喜びを味わい，音や音楽への興味・関心が更に高まっていくことを期待している。

３ 題材の指導目標及び評価規準

（１） 指導目標

A 日本の音階（平調子）の特徴や雰囲気を感じ取り，旋律とその伴奏などのかかわりに関心を持たせ，それらを生かした音楽を工夫してつくる学習に主体的に取り組ませる。

B リズム，旋律，構成を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音階の特徴を生かした旋律を工夫してつくらせる。

C 日本の音階（平調子）の特徴を生かした音楽表現をするために必要な音の組み合わせ方や記譜の仕方などの技能を身に付けさせる。

（２） 題材の評価規準

＜観点１＞ 音楽への関心・意欲・態度	＜観点２＞ 音楽表現の創意工夫	＜観点３＞ 音楽表現の技能
リズム，音階の構成音によって生み出される独特な雰囲気に関心を持ち，それらを生かし音楽表現を工夫して旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽を形づくっている要素（リズム，旋律，構成）を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，音階の特徴を生かした音楽表現を工夫し，どのように旋律をつくるかについて思いや意図をもっている。	日本の音階の特徴を生かした音楽表現をするために必要な音の組み合わせ方や記譜の仕方などの技能を身に付けて，音楽をつくっている。

4　題材の指導計画及び評価計画　（本時１／２）

時	学　習　活　動	評価規準
1 本 時	○日本古謡「さくら　さくら」鑑賞 ＊旋律を聴かせる。 ＊歌って再現させる。 ＊２人ペアで，使われている音を模索させる。 （iPad アプリ「Virtuoso」） ⇒全体で階名を確認させる。 ○旋律づくり ＊最初の２小節の旋律を教師が提示。 ＊音やリズムを変化させ，旋律の雰囲気が変わっていくことを知覚・感受させる。 （発言） ＊ルールの説明 ＊旋律づくり （ワークシートへの記録） ・「さくら　さくら」と同種の日本の音階の構成音を用いる。 【E／F／A／B／C／E】 ・最初の２小節を基本とし，次の３～４小節で変化させる（リズムや用いる音）。５～６小節では最初の２小節を反復させ，７～８小節は自由につくり，旋律に終止感を持たせて終わる。 ・リズムは，４分音符と８分音符に限定する。 ＊３～４小節と７～８小節の旋律は変える。 ○作品交流 ＊作品を交流し合う。 （発表側には聴きどころ，工夫したところなどを発表させる。聴く側には，どんなことが伝わってきたか，よいと思ったところはどこかを発表させる。） ○授業のまとめ ＊「うさぎ」「千本桜」を鑑賞する。 （本時の活動とかかわらせて聴き，感じたことを発表させる。）	＜観点１＞ ＜観点２＞
2 次 時	○前時の復習 ＊自分のつくった旋律を，それぞれの楽器で再現させる。 ○２小節の前奏と２小節の間奏をつくらせる。 （ワークシートへの記入） 前奏２小節・・・８小節・・・間奏２小節・・・８小節 ○作品の交流 （発表側には工夫したところを発表させる。聴く側には，どんなことが伝わってきたか，よいと思ったところはどこかを発表させる。） ○授業のまとめ （創作の授業の感想，日本の音階の特徴の確認）	＜観点１＞ ＜観点３＞

5　本時について

（1）　主題

日本の音階（平調子）の特徴や雰囲気を感じ取り，それらを生かした旋律をつくってみよう。

（2）　指導目標

日本の音階（平調子）の特徴や雰囲気を感じ取らせ，それらを生かした旋律をつくらせる。

（3）　評価規準

観　点	「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイント
【観点１】	＜観察・発言＞ 日本の音階の特徴や雰囲気を感じ取り，それらを生かした旋律をつくる学習に主体的に取り組もうとしている。
【観点２】	＜観察・発言・ワークシート＞ リズム，旋律，構成を工夫し，どのような旋律をつくるかについて，自分なりの思いや意図をもってワークシートに記入している。

（4）　本時の構想

本時は，日本古謡「さくら　さくら」に代表される日本の音階（平調子）を題材として取り扱う。

生徒たちは，演奏を聴き，旋律を聴き取った後に，２人ペアでiPadアプリ「Virtuoso」を用いて，その音階の構成音を探る。このアプリは，同時に二人用の鍵盤が表示されるため，鍵盤がわからない生徒もペアの教え合い学習によって，安心して学習に取り組むことができる。著名な曲であることから，比較的簡単にその構成音の五音[E・F・A・B・C・(E)]を探すことができると予想される。

「さくら　さくら」の構成音のみを使用し，８小節の旋律をつくる課題を提示した後に，最初の２小節を教師が提示し，音やリズムが一つ変わっただけでも，旋律の雰囲気が違うことを生徒に知覚・感受させる。学級全体で感じたことを交流し合う過程を経ることにより，旋律のつくり方や工夫の仕方，旋律に対する自分なりのイメージがふくらむことが期待できる。

創作に用いる楽器は，卓上木琴やソプラノリコーダー，iPadとし，学級全体で確認した２小節に続けて旋律をつくらせる。続く３～４小節目は，最初の２小節の形を変化させ，５～６小節は最初の２小節の形を反復させる。最後の７～８小節は自由につくらせるが，最後は終止感を持たせた旋律とする。音やリズムを試行錯誤しながらつないでいくが，リズムの工夫が苦手な生徒に配慮し，リズムを限定（４分音符と８分音符）して使うようにさせたい。つくった旋律は記譜していくが，記譜法に縛られることなく，階名や線など，自分が見てわかるような形（図形楽譜やドレミの文字譜等）で記録してよいこととする。記譜の際には，教師側で様子を見ながら適宜助言を加えていきたい。また，最初に示した課題ができた生徒に対しては，「反復」や「変化」といった構成を意識した８小節の旋律づくりを発展課題として自由につくらせていきたい。

つくった旋律は，実際に演奏し，聴きどころや工夫したところなどをあわせて発表させる。演奏後は，その作品に対して，どのように感じたかを発表させることで，お互いの作品のよさを認め合うと共に，自分の作品に生かしたり，思いを深めたりすることができるであろう。

終末では「うさぎ」や「千本桜」（作曲　黒うさＰ）を聴かせ，本時の学習と，生徒たちが日常生活の中で親しんでいる音楽とのかかわりを感じさせたい。

本題材における学習は，創作を苦手とする指導者自身の課題克服への一つの挑戦でもある。

（５） 本時の展開

段階	学習活動及び学習内容	時間	学びの自覚化とのかかわり
導入	1 「さくら　さくら」を鑑賞する。 ・旋律を聴いて，紙黒板の歌詞を見ながら使用されている音を模索する。　＊iPad アプリ ・全体で確認する。 日本の５音音階で旋律をつくってみよう	１０	○iPad アプリを用いて，音を鍵盤で確認する。 ⇒日本の音階への興味・関心
展開	2 提示された２小節の旋律を工夫する。 工夫できること⇒用いる音，リズム 3 旋律をつくる。 ・ルールの確認 ・「さくら　さくら」と同種の日本の音階の構成音を用いる。【E／F／A／B／C／E】 ・最初の２小節を基本とし，次の３～４小節で変化させる（リズムや用いる音）。５～６小節では最初の２小節を反復させ，７～８小節は自由につくり，旋律に終止感を持たせて終わる。 ・リズムは，４分音符と8分音符に限定する。 ＊3～4小節と7～8小節の旋律は変える。 4 作品を交流し合う。 ・発表側⇒聴きどころや，工夫したところを発表。 ・聴く側⇒どんなことが伝わってきたか，よいと思ったところはどこかを発表。	３２	○音やリズムの変化による雰囲気の違いを知覚・感受。 【評価の観点１】 ○試行錯誤しながら音やリズムを変え，旋律へとまとめていく。 【評価の観点２】 ⇒音・音楽への興味・関心 ○２小節を反復させたり，変化させたりして，８小節を構成していく。 ⇒知覚・感受 ⇒課題に迫る「学びの自覚化」 ⇒よりよいものを追求する ○旋律の記譜
終末	5 「うさぎ」「千本桜」を鑑賞する。 （本時の活動とかかわらせて聴き，感じたことを発表させる。）	8	○本時の学びに対する喜びや充実感を得る。 ⇒成功体験・感動体験